

電気通信大学 平成20年度シラバス

授業科目名	日本の内政と外交		
英文授業科目名	Domestic and Foreign Affairs of Japan		
開講年度	2008年度	開講年次	3年次
開講学期	前学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法	講義	単位数	2
科目区分	総合文化科目-上級科目-テーマ別セミナー		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	梶浦 篤		
居室	東1-511		

公開E-Mail	授業関連Webページ
kajiura@hc.uec.ac.jp	なし

<b>【主題および達成目標】</b>
<p>授業では、日本の現在までの内政と外交の歴史を踏まえながら、これからの日本はどうあるべきなのか、また、そのためには我々はどうすれば良いのか、ということまでも考えていきたいと思っています。</p>

<b>【前もって履修しておくべき科目】</b>
なし

<b>【前もって履修しておくことが望ましい科目】</b>
「政治学A」および「政治学B」、または「政治学」

<b>【教科書等】</b>
<p>テキスト：豊下楯彦『安保条約の成立』岩波書店、1996年（735円）。</p> <p>このほか、プリントも配ります。</p>

## 電気通信大学 平成20年度シラバス

### 【授業内容とその進め方】

授業はゼミ形式で行います。参加者の数によって、多少の変更もあり得ますが、各自がテキストの担当部分をまとめて報告し、これを受けて皆で討論をしながら、理解を深めていくということになります。

予習として、参加者全員が事前にテキストを読んでくることが前提となります。

概ね、テキストに沿って授業を進めますので、テキストの目次を参照してください。

### 【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

ゼミは講義とは異なり、受身ではなく、皆さん自身が積極的に発言することが求められます。評価は、(1)報告の内容、(2)発言の内容、(3)出席の状況を、中心に行います。単位を取得するためには、3分の2以上の出席が必要条件となります。

評価基準は、一概には言えませんが、全回出席の場合、おおよそ以下のようなことが目安となりましょう。

秀(S)：授業で扱ったテーマについて、opinion leader になれるとみなされる。

優(A)：授業で扱ったテーマについて、自分自身の意見を持っているとみなされる。

良(B)：授業で扱ったテーマについて、よく理解しているとみなされる。

可(C)：授業で扱ったテーマについて、基本的なことは理解しているとみなされる。

### 【オフィスアワー：授業相談】

適宜相談に応じますが、事前に予約を取って下さい。

### 【学生へのメッセージ】

初回に出席できない人は、必ずメールで連絡を取ること。

頭の中だけではなく、心の中でも考えましょう。

机の上で考えるだけではなく、歩いて考えることもしましょう。

身の回りのことを考えるだけではなく、地球規模でも考えましょう。

### 【その他】

人間コミュニケーション学科の学生は、この授業を、人間コミュニケーション学科の専門科目「Academic Reading」として履修することもできます。